

重点施策 2 確かな学力を育む教育課程の編成と実施

【施策方針】

- 確かな学力の定着と向上
- 内面に根ざした道德性の育成
- 個性の伸長、集団の一員としての自覚及び自主的・実践的態度の育成
- 自ら学び、自ら考え、よりよく問題を解決する能力や態度の育成

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

- ① 学習指導
- ② 道德教育、特別活動、総合的な学習の時間
- ③ 外国語活動(小学校)
- ④ 情報・視聴覚教育
- ⑤ ふるさと教育
- ⑥ 研究事業等

(2) 施策・事業の実施状況

① 学習指導

各校で、これまでの実践を積み重ね、一人一台端末と高速ネットワーク環境を活用した授業への取組も3年目に突入し、クラウド型の学習支援ツール「ロイロノート・スクール」や「Google Workspace」を使い、教員は課題や問題を配付し、子どもたちはそれを端末で確認し、学習を進め、学習成果をクラウドにアップしていくといった授業がスムーズに行われるようになっている。

市教育研究ではブロックの研究が3年次を迎え、保内ブロックが研究発表を行った。当日は、集会をオンラインで実施し、遠隔での話し合いを初めて実施した。他校との授業交流を通して主体的、対話的で深い学びを目指した授業を行った。様々な活動においてICTを効果的に活用し、成果を上げた。また、ブロック全体で学力向上を目指す共同研究が推進され、児童生徒に確かな学力と関わりを大切にした学び合う力を育てることができた。

不登校の児童生徒や、新型コロナウイルス感染症対応等で登校できない児童生徒に対して学びの保障の観点から、一人一台端末を活用したオンラインでの授業も積極的に行った。また、修学旅行や自然体験活動の事前の学校間交流や他市町の学校との交流にもオンラインによる一人一台端末を活用するなど、昨年度から継続した取組が行われている。

また、学校教育活動指導員を、継続して4校(白浜小、江戸岡小、神山小、宮内小)に配置し、人数の多い学級において少人数指導に取り組み、個に応じた学習指導の充実に努めた。

② 道德教育、特別活動、総合的な学習の時間

授業研究を通して、主発問や切り返しの発問、ICTにバンドルされている思考ツールの活用等についての研究を深めることができた。

総合的な学習の時間部会では、夏季研修会で愛媛県総合的な学習の時間教育研究会に参加し、他校の研究発表や文部科学省調査官の講演を聴くなどして、授業実践につながる有意義な研修を行った。

③ 外国語活動(小学校)

教育委員会は、ALT 4名と外国語指導助手コーディネーター1名を配置し、小学校の外国語科・外国語活動担当教諭の指導力の向上やALTを効果的に活用した小学校低学年の外国語教育の継続に取り組んだ。また、小中合同外国語部会において、小学校外国語科の授業研究を通して、小小、小中連携の在り方において系統的な指導について研修を深めることができた。

④ 情報・視聴覚教育

夏季実技研修会では、ICT支援員を講師に迎え、EILSの作問機能を使ったテストづくりについての研修を実施するなど、EILSの活用とその課題を確認した。CBTシステムの導入について、各校の状況を情報交換しながら児童生徒のICT活用能力の向上に向けた研修を深めることができた。

⑤ ふるさと教育

地域に受け継がれてきた伝統や文化、地域の歴史などについて調べる学習を行っている。その際、地域の方々とのかかわりを大切にするとともに、幅広く情報を集め、公民館やボランティアの協力を得ながら、地域の実状に応じた取組を行っている。これらの学習活動は、得た知識を深める学習となるばかりでなく、地域との絆を深める活動にもなっている。小学校では、市教研社会科部会の教員を中心に作成した「八幡浜の暮らし」を使用し郷土を愛する心を育む学習の充実を図っている。

中学校では、キャリア教育の中で、県や大学と連携し、「職場体験」「中学生版の合同会社説明会」「中学生と大学生のカタリバ」を開催し、ふるさとの良さを実感できる学習活動を行っている。

⑥ 研究事業等

次の学校等が研究指定を受け、教育実践を通して児童生徒の生きる力の育成に成果を上げた。

- 中学校武道地域連携事業（八代中（柔道））
- 管内複式学級担任者研修会（双岩小）
- 海や浜辺を美しくする運動（真穴小）

【事務事業点検評価委員意見】

- これまでの取組により、諸調査の問題や結果資料の活用に対する重要性が各学校で認識され、すべての学校で全国学力・学習状況調査や県学力診断調査等の結果資料を分析・活用している。しかし、その実効性を高めることに課題があるため、教育センターの「出前講座」による具体的な支援や研修会参加者による発表・報告等を研修内容に加えるなどの取組が行われている。また、各教科・教科外部会による実践的な研究も深まっており、参加者がそこで得た知見を校内研修等を通じて自校の教職員に伝え、市全体で共通理解を図っている。今

後は、これまでの成果と課題を整理し、更に関係諸機関と連携しながら学力の底上げをしていくとともに、知識と活用を一体的に捉えた学力を育成するための取組の推進が望まれる。

- GIGAスクール構想も4年次を迎え、一人一台端末の効果的な活用がより進出し、従来は成し得ることができなかった個別学習や協働学習の効率化を進めることができている。また、一律、一斉が基本であった従来の学習スタイルに、ICTを活用した学びを加えて組み合わせることにより、教育の質の向上が図られている。個別学習においては、従来の学びながらの活用に加えて、デジタル教材等を活用することで、子どもたちの個々の状況やニーズに応じた学習の充実を図っており、不登校児童生徒や特別な支援を必要とする児童生徒等においても、適切な教材等を活用することで、それぞれの教育的ニーズに合わせた支援が行われている。協働学習においては、考えのリアルタイムでの共有や双方向の意見交換を行う等の場面でICTを有効に活用しており、多様な他者や社会とつながる探究的・協働的な学びの充実を促進している。今後、デジタル教材・教科書や、教育及び校務データの活用に向けたプラットフォームの導入・運用を図るとともに、環境整備を推進し、感染症や災害、不登校等の事情で登校できない場合の学びの保障にも対応したオンラインによる学習支援を更に充実させていただきたい。
- 八幡浜市は、全国・学力学習状況調査の児童生徒質問調査で「PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用した」の項目が全国平均を大きく上回っており、極めて良好な結果となっている。ICT機器を活用した支援については、教職員と児童生徒がタブレット端末を通して意見の交流や課題の提出などを行うことができるなど活用の幅が広がっており、ICT機器の活用が浸透してきている様子が見える。側面からの評価として、教職員研修後の満足度調査やタブレット端末使用による教育効果等の調査が可能かと思われるので、今後の実施を検討していただきたい。タブレット端末使用により、児童生徒が充実した学びを得るだけでなく、教職員側の負担軽減にもつながることを願っている。多忙な教職員が効率よく、より効果的に授業を実施できるような取組、あるいはそれに対する評価も重要かと考える。
- 教育委員会指導の下、学校では各教科等において、基礎的・基本的な知識及び技能を習得しながら、知識を相互に関連付けてより深く理解し思考する学習を行い、その過程で、事象を多様な角度から捉えて課題を探究するための見方や考え方の育成を図ろうとしている。特に総合的な学習の時間では、教科横断的・融合的な学びや体験活動の中で、課題を発見し解決する能力、論理的思考力、情報活用能力、コミュニケーション能力等の育成が図られている。各教科等で身に付けた知識や技能を活用し、また各教科等の見方や考え方を働かせ、事象を多様な角度から捉えて解決に向かう探究学習を行うことにより、児童生徒が身に付けた知識や技能が社会で活用できる力として定着し、更なる学習活動への意欲へとつながっている。今後も、学校での学びを社会や人生に生かし、未知の状況にも主体的に対応できる力を身に付けた児童生徒を育成していただきたい。
- 各学校では、生命を大切に作る心や他人を思いやる心、善悪の判断などの規範意識等の道徳的心情や道徳的実践力の育成に努めるとともに、道徳教育のさらなる充実を図るために、道徳教育推進主任を中心に研修を積み重ねている。また、自他の命を大切に作る命の教育についても、養護教諭が中心となって命の大切さについて考える授業を実施するなど、計画的に取り組むことができている。

- 教育委員会に在籍する外国語指導助手コーディネーターが日頃から4人のALTとコミュニケーションをとり、各学校のJTLとALT、ALTと児童を円滑につなぐ役割を果たしている。児童は、ALTの専門性を生かしたネイティブの発音に触れ、外国語を学ぶ意欲を高めている。また、中学校教員が小学校での指導内容を確実に把握し、「聞く」「話す」を中心とした言語活動の充実を一層図るなど、小学校での学びを大切にしたい指導を心掛け、小学校の外国語活動で培った「臆せず外国語を話し、外国語学習を楽しむ」という意識をより一層高めている。今後も、持続可能な小・中連携を図るための研修を、市教研の小中合同部会を中心に継続し、より効果的な小・中連携の在り方について検討していただきたい。
- 八幡浜市には、「八幡浜のくらし」という良質な教材があり、平成18年度から小学校で活用されている。昨年度、八幡浜のくらし改訂委員会によって内容や写真、統計資料等が刷新され、「八幡浜のくらし（令和6年度改定）」が完成した。今後、これまで以上に広く活用を促進していくことが期待される。活用にあたっては、知識を伝達するだけでなく、一歩進んでこの教材をきっかけとして、児童がふるさと八幡浜への愛着や誇りを持ち、よりよく生きるための基盤につながるよう工夫していただきたい。
- 社会や経済の活力を維持し、安心して暮らせる未来を築いていくため、郷土への思い、地域や社会に参画する意志と行動力を備えた人材づくりが一層求められている。教育委員会は、地域における「ふるさとを学ぶ活動」を推進する取組について、三世代交流会の実施など各公民館における地域の体験活動や、社会福祉協議会など社会教育関係団体との連携を図り、様々な場で体験活動が行われるよう支援している。今後も、郷土への誇りや愛着を育む体験活動の充実が行われるよう、事業の継続を図っていただきたい。

【自己評価】

- ICTを活用した授業改善については、伝統的ある愛媛教育と適切なICT活用のベストミックスを目指している。ICTの活用については、「使う」から「効果的に使う」を意識した授業づくりに取り組んだ。学習過程の中で目的意識を持った効果的な活用については課題が残った。一方で、児童生徒及び教員のICT活用のスキルは、向上してきており、授業や学校行事の中での有効活用を期待できる。さらに、学校視察等で効果的な活用について支援、指導していきたい。市教研企画会を学力向上推進委員会と兼ねており、毎年、学力向上に向けての提言を行っている。基礎・基本の積み上げ、支持的風土のある集団づくりを基盤に、PDCAの確立、計画的・継続的な教育課程の実施、家庭学習や読書の奨励を提言している。市教研での研修体制の継続と合わせて、学力向上に向けて継続して取り組むよう各学校に働きかける。
- 小・中学校ともに各校の研究体制を確立した上で、特別部会や教科・教科外部会で情報交換を密にし、各校の主任や各部会の部長のリーダーシップが発揮できるよう市教育委員会として支援を継続した。
- 令和5年度は、双岩小学校が「管内複式学級担当者研修会」の会場校となり、複式学級における指導方法について研修を深めた。
- キャリア教育、プログラミング教育、防災・安全教育、主権者教育、消費者教育等、学校現場には多くの教育実践が求められているが、学校現場の実態を把握した上で、学校の教育

目標実現のために必要な教育課程の編成・実施を指導していく。ブロック体制の見直し等も計画的に取り組みたい。また、国際理解教育を推進する上で、外国語や異文化への興味・関心を高める働き掛けや人権・同和教育的視点を重視した取組等に一層力を入れていきたいと考える。

- 小学校3、4年生が授業等で使っている「八幡浜の暮らし」について、「郷土を開く」の単元で、産業や教育、文化の発展に尽くした偉人について紹介し、小・中学校を通して学ぶ郷土学習に生かせるようにしている。市教育基本方針の中で、「伝統と文化を尊重し、郷土愛を育てる。」と示しており、ふるさと八幡浜の人や豊かな自然、伝統文化を体感させるとともに、よりよい社会を築くことができる人材の育成を発達段階に応じて育成していく。